

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

当たり前をつくる税金

檜枝岐村立檜枝岐中学校 3年 椿原 さつき

私は、毎日当たり前のように学校に通ってきた。だから、学校に対して感謝することはほとんどなかった。しかし税について知った今では、学校に、また、学校に通うことのできる環境に大きく感謝している。そして、この恵まれた環境を何世代も先までつなげていきたい。

私は小学校に入学してから早9年、中学3年生になった。この9年間、学校に通うことは私の一つのルーティンでしかなかった。だから、学校が飛び切り面白いと感じることはほとんどなかった。小学1年生の頃のわくわく感は次第に薄れていき、それにもなって学校に感謝する気持ちも薄れていってしまった。しかし、今年の6月に学校で租税教室が実施されたことで、私の気持ちには変化が起こった。私は税について何となくしか知らず、また長々とした話を聞くだけだろうと思っていた。しかし私の予想とは相反して、自分の知識が増える面白い話が盛りだくさんだった。思わず聞き入ってしまうような話だった。そのことをきっかけに税についての関心が高まり、税の使い道についてさらに詳しく調べてみることにした。すると、財務省のページに、私たちが毎日通っている学校にも税金が使われていると書いてあった。教科書や備品、そして教育費など、何が税金によってまかなわれているのかは私も前から知っていた。しかしその税金での負担額に驚いた。財務省の2020年度版のデータによれば、教育費だけで公立小学校の場合は約104万円、公立中学校の場合は約120万円がまかなわれているそうだ。それも、児童生徒一人分。私が義務教育を終えるまでに約220万円が補助される。一人の子どもを一人前にするのにそんな大金がかけられていたなんて。私が学校に通うことをルーティンにしてくれていたのは税金だった。そして、その税金を払うために数えきれないほど多くの人たちが、今日も汗水流して働いている。私が毎日学校に通えることは、決して当たり前ではないこと実感した。学校

に、そして学校に通うことのできる環境に、深くありがたみを感じる出来事だった。

それからというもの、私の学校に通うことへの考え方は大きく変わった。どんなに辛いことがあっても、今日も頑張ろうという気持ちに切り替えることができた。税金を通して日本中の人たちが私を応援してくれているような気がする。私の夢を後押ししてくれているような気がする。そんな人たちの思いに応えるためにも、学校で多くの経験をし、今以上に立派な人間になっていきたい。そして、私が大人になり、納める税の種類や額が増えたときには、自分が税に助けられたことを思い出し、納税の義務をしっかりと果たそうと思う。今は税金によって支援を受けている側の私だが、大人になってからは税金を払うことによって次世代の学生を支援したい。